

税金の恩恵

西尾市立幡豆中学校 3 年 鈴木 莉子

私たち中学生が「税金」という言葉を聞いて思い浮かべるのは消費税だと思う。一番身近であり、物や経験を購入する全ての人が公平に支払わなければならない税金だ。店頭での価格表示が税込み価格となったことで、分かりやすくなった反面、金額が高く感じられて購入を躊躇することが多くなった。現代社会において何も購入せずに生活することは困難であり、生活に直結するため消費税の増・減税はしばしばニュースにも取り上げられている。消費者としては品物を安く購入できることがメリットとなりそうだが、国民の生活を守るための「増税」、国民の生活を守るための「減税」と真逆のことがメディアを通じて訴えかけられている。どちらの意見ももっともらしく言われているが、税金がどのように使われ、私たちがどれだけ「税金の恩恵」を受けているかを考えなければならないと思う。

私は三歳から中学一年生まで定期的に通院していたため、「税金の恩恵」を受けたと実感している。幸いにも手術など大きな処置は経験しなかったが、受診を終えて支払いをせずに帰宅できることに對し、幼いながらも安心や感謝を感じていた。子どもの医療費助成制度について調べてみると、財源の多くが税金であり、自治体によって対象年齢は異なるものの、子どもの健康を守り、経済的な理由による未受診を防ぐことを目的とされているとあった。この制度によって私たちは安心して医療を受けることができ、たくさんの命が救われている。病院では酸素投与や点滴治療をしている多くの子に出会ったが、税金により誰もが平等に医療を受けられる制度があり、全国で運用されていることに改めて感謝の気持ちがわいた。

税金について調べていくと、義務教育課程の私は様々な「税金の恩恵」を受けていることを知った。整備された道路を通って学校へ行き、配布された教科書やタブレットを使い、夏にはエアコンの効いた教室で授業を受けて水の張ったプールで泳いでいる。私の学校生活は、多くの税金によって支えられているのだ。税金の使い道は多岐に渡り、支援を必要としている分野は多い。その中でも子どもや教育に税金が使われている意味や重要性を正しく理解することが、私たち中学生ができる社会参加の一步ではないかと考えた。子どもや教育に税金が使われるのは、今後の日本を担っていく世代が安心・安全に生活できるよう環境を整え、未来の日本を正しく維持・発展していくための投資だと思えた。日本には納税の義務があり、数年後には私も納税者となる。今後も税金の仕組みや国の政策に関心を持ち、自分は社会に参加していると感じられる大人を目指していきたい。そして、納税による人々の支え合いによって社会が安定していることを理解し、次の社会を担う世代に向けて「税金の恩恵」の連鎖を繋げていきたいと思った。